

ゆうあいスポーツ大会

9/13（日）県立総合運動公園（諫早）・野球広場



いつも5月に行われる大会ですが、今年は夏が終わったばかりの9月に開催となりました。

何日か前からの雨の予報を裏切る快晴！とても残暑の厳しい暑い日でした。

パートの私は初体験。暑い中の長～い開会式に心配しましたが皆さんはとても元気でびっくり！応援にも力が入ってしまいました。みなさんのいつもと違ったいい笑顔を見ることができ、楽しく過ごせました。たくさんの元気をもらって充実した一日となりました。（布志木）

この日、育成会はリレーで3位！最後の種目で大盛り上がりの応援席でした。

～リレーメンバーに感想を聞いてみました！～

「相手を抜けて良かったです。来年もアンカーでいいです」（岩田さん）「走っていくと、緊張感がなくなりました。来年も頑張って走ります」（西岡さん）「OKでした」（加藤さん）「最初、リレーで出遅れたけど最後まで頑張りました。来年もリレーを頑張ります」（小浦さん）「楽しかった。初めて走ったから緊張しました」（嶋田さん）「がんばった。来年も出たいなあ、と思いました」（増山さん）

とぎつ夏まつり

8/30(日)

ウォーターフロント公園



小さなお客さまがいっぱい♪

育成会ブース(フリーマーケット・ヨーヨー釣り・スーパーボールすくい)

娘は初めて参加の夏祭り！家族も一緒に参加させていただきました。今までの夏祭りはお客という立場で楽しんでいましたが、今年は売る方としての立場で、娘も家族もワクワク・ドキドキで待ち望んでいました。

私たち家族はスーパーボールすくいのお手伝いで、たくさんの子供たちが楽しく遊んでくれていましたが、昨年より仕入れの数が少なかったのので、お手伝いを始めてすぐに完売してしまいました。

何もかもが初めてでしたが、みなさんの声かけで楽しくお手伝いできました。また、たくさんのお客さまに来ていただけるよう、来年もがんばってお手伝いしたいと思います！！(亀野)

エリアブース(唐揚げ・生ビール・ジュース販売)

午前 8 時に集合した職員は、前日準備していた備品をせっせとトラックや軽ワゴンに積み込み、会場へ出発、出店準備開始。徐々にお店らしくなってきた気が…。唐揚げののれんも飾り付けてみよう、生ビールの旗も立ててみよう。ケースに氷とジュースを入れると、ほぼ例年通りのエリアのお店ができました。

雨が降るのが心配ですが、もう唐揚げもジュースも売ってしまうしかない、

頑張るのみ！お昼のうちに少しでも多く売りたいと思い、我が家の長女(高3)のイメージで、「いらっしやいませ～唐揚げどうですかぁ～♪」と叫んでみたところ、なんだか不協和音を漂わせてしまい…売れない。この作戦は失敗(´_`)

その後、利用者さんが販売のお手伝いにやってきました。一生懸命の呼び込みと笑い声で、雰囲気が一変し、にぎやかなお店となりました。

夕方、女性職員は交代で、唐揚げを大量に残したままの帰宅となりましたが、その後はエリアの男性職員＋鶴南の先生で完売したとのことで、めでたしめでたし。

今年も皆様のおかげ様で完売し、無事に終了できました。本当にお疲れさまでした、そしてありがとうございました。(鰐口)



フリマは今年も盛況！



女性職員の黄色い声届かず(涙)

手をつなぐ育成会九州大会

8/29(土)30(日)

ホテルニューオータニ福岡

昼に高速バスで博多の会場へ。九州中の育成会会員が数百人集いました。受付のロビーには障がい者とその親、施設職員や学生ボランティアなどで活気がありました。

私が参加させていただいたのは第3分科会「暮らす」(老後・権利擁護について)。たくさんの参加者の中には杖をつくご高齢の方も多く、やはり心配なのは親亡き後のこと。

高齢知的障がい者支援における入所施設の現状や、地域で安心して高齢期を過ごすための最近の話が聞けました。特に『65歳問題』は興味深く、65歳以上は原則、介護保険のサービス利用となることや、通院支援の制度等の話も伺うことができました。

私たちの会には65歳の障がい者の方はまだいませんが、先輩育成会はそうした方々の支援をしており、現場と法人で障がい者のための活動をしている育成会活動の、層の厚さを感じました。

次の開催地は長崎です。同じ立場の者同士で集まり、育成会の活気ある取り組みを知るだけでも有意義であると思います。遠方での大会にはなかなか参加しづらい方も、来年はぜひ参加されてみてはいかがでしょうか。(辻)



新しい職員さん

エリア 21



6月より支援員としてお世話になっております、坪田汐遥（つばた・きよはる）と申します。

利用者のみなさん明るく元気な方ばかりで、毎日楽しく勤務させていただいています。

これからもみなさんのお役に立てようがんばりたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

第15回 全国障害者スポーツ大会 in 和歌山

ボウリング競技の部 10/24（土）25（日）

秋空の中、長崎から当会員 2 名を含む 5 名が出場しました。

前日の練習では 5 名とも絶好調との話でしたが、試合 1 日目は全員が予期せぬ不調連発。活気もなく、笑顔もなく見事に撃沈状態・・・(T_T)



2日目は徐々に意気が上がり、応援しがいがありましたが、長崎は銅メダル 1 個に終わりました。少年・青年・壮年と大会新記録続出に圧倒された大会でした。（田平）

畑の整備 さあ～収穫目前！～ 保護者のみなさん 草刈りありがとうございました

芋畑にさつま芋の苗を挿す前、そして挿した後の雑草の生え方には大変、閉口しました。数回の草取り。その中でも 8 月の暑い日、あるいは真夏日が続く厳しいこの日、多くの方々のご協力があり、アッという間に見違えるほどの畑に甦りました。さつま芋のつるも順調に成長し収穫を待つばかりです。



自らの手で芋挿しをした利用者さんが、大きなさつま芋を手にして喜ぶ姿が目に見えます。これまでにご協力いただきました多くの方々に感謝です。お疲れさまでした。そして、ありがとうございました。（村島）

芋ほり開始！～次長日記～

芋の収穫に向け保護者の方々に芋畑の除草作業をしていただきました。見違えるように、きれいになった芋畑。芋づるも立派に育っていました。あとは収穫するばかりです。

「学校給食に使うサツマ芋を、11 月 10 日に納品お願いします。」時津町給食センターから注文がありました。いよいよ納品に向けての収穫作業です。

まずは芋づる払いです。芋づるをノコ鎌で切り払って、芋を掘りやすくします。これで、芋ほりの準備ができました。

さあ、いよいよ芋ほり作業です。土の中から、芋の先が少し見えています。6 月に芋づるを植えたけど、元気に育って大きな芋が収穫できるかなあ・・・？ドキドキの瞬間です。11 月から実習に来ている附属特別支援学校の 2 名の実習生も参加です。

やった～！！大きな芋がたくさん顔を出しました。ほっとひと安心。収穫後は、芋と一緒に



ハイ！ポーズ！

畑の整備&芋ほり

第2回 体育大会 風船バレー

10/24 (土)
時津海と緑の運動公園体育館



参加した保護者より

～長田さん～

「楽しく頑張りましょう」のあいさつや選手宣誓と、がんばらんば体操で体をほぐしました。育成会員と本人、職員さんの混合で8チームに分かれ、それぞれチーム名をつけて、前半リーグ、後半トーナメント戦で行いました。チーム全員が1回は風船に触ることなど、協力し合うのがルールです。風船も思うように飛ばなかったり、飛び過ぎたりと、汗ばみながらの熱戦です。笑いあり、転びありなど、おもしろかったです。球技を行っていても応援していても、一人一人の特徴を知る機会になったように思いました。

力を合わせた結果、金銀銅のメダルを一人ずついただいた人たちは、誇らしげな表情に思え、私も銀メダルを首にかけることができ、スポーツを通じて名前を呼び合い、助け合いながら、楽しいひと時を過ごせました。

参加した職員より

加藤さんの開会宣言の後、安野さんと大西さんが元気いっぱい選手宣誓をされ、午前中は予選、午後は決勝戦を行いました。ゲーム中はチームのみんなでコート内をあっちこっちに移動しながら、「とりゃー!」「えーい!」「えーっ!あと誰が触ってない?」等必死に風船を追いかけて頑張りました(^-^)/ 時にはおかしすぎてゲーム中に笑い転げるチームもあり…参加者全員が一日楽しく過ごせました♪ (梅津)



優勝: 嵐チーム(川添キャプテン)



おめでとうございます!
おつかれさまでした♪



準優勝: マリオネットチーム(平埜キャプテン)

第3位: チューリップチーム(岩田キャプテン)

第37回 時津町民ロードレース

11/15 (日)
時津海と緑の運動公園

出走前



今年もグループ対抗ミニ駅伝にエリア21チーム市川さん・加藤さん・三岳さん・谷山さんプラス新入職員の坪田支援員の計5名で出場してきました。

当日は絶好の運動日和で、選手のみなさんがはつらつと走っていた姿が印象的でした。21チーム中16位と、近年稀に見る好成績でした。敢闘賞も頂いて帰ってきました。

選手、沿道で応援のみなさん、お疲れ様でした! (古本)

「私にとっては第35回大会以来2年ぶり2回目の出場。会場の熱気を楽しみながら走り抜くことができました。完走できた瞬間は心の壁を壊したよう。結果は16位に終わりましたが、チーム全体の実力が発揮され敢闘賞を頂いたので嬉しさが一入(ひとしお)感じられました。この大会を機に、スポーツを仲間と更に楽しみたいと思います」(市川)

「16位になって敢闘賞をもらって嬉しかったです。ちょっと遅かったけどよく頑張りました」(三岳)「16番になれて嬉しかったです。敢闘賞をもらえて嬉しかったです」(谷山)

「ロードレース大会で1区を走ってきました。とても嬉しくなりました。きつかったけど頑張りました」(加藤)「ほぼぶっつけ本番でしたが、沿道からのみなさんの温かい応援もあり、無事にタスキを繋げることができました。敢闘賞も取れ、嬉しかったです。応援ありがとうございました」(坪田)



勉強会

～自立を支える
さまざまな人たち～

11/23 (月・祝)
時津町北部コミュニティセンター



長崎市手をつなぐ育成会常任理事の長島志津代氏を講師に迎え、具体的な事例を基に「自立を支えるさまざまな人たち」と題してご講演いただきました。

会場には育成会員や本人さん、地域の民生委員さん、特別支援学校保護者など、50名近く参加があり、避けては通れない講演のテーマに、みなさんしっかり勉強したい、という熱意を感じました。

長崎市育成会がどのように障がいのある人の生活を見守り、支援しているか、事業説明の後、福祉サービスのスタッフとして関わられた「障がいのある人が保護者と一緒に暮らせなくなったらどのようなのか」という事例を、5件紹介されました。

劣悪な環境にお住まいだった方、保護者と一緒に半ば強制的に入院させられていた方、同居の家族から経済的虐待を受けていた方などもいらっしゃいました。保護者と一緒に生活できない状況になった時、「日中過ごすところは?」「どこで暮らすか?」といった現実的な問題に、スタッフとしてどのように対処していかれたか、また65歳を超えて介護サービスへ移行していく様子など、本人さんの生活変化ぶりが紹介されていきました。

どのケースにも共通しているのは、本人さんだけでなく家族や環境にもいろいろな事情があること。そして、通常の暮らしを送れているうちは特に問題だと気づかなくても、保護者が倒れた途端にその事情が問題として表面化していくのが特徴的でした。

しかし、長崎市育成会では、「あきらめない」ことを理念に、相談だけでは救えない現状を、福祉サービスを越えた人間の善意から「おせっかい」をし、本人さんの意思を最優先にしながら、障がいのある人の生活を守ってきました。7年ほど前の様子から、現在の落ち着いた本人さんの暮らしぶりが紹介され、会場からは多くの人の安堵や感心のため息が聞こえました。

また、「親として準備しておくことは?」という質問には、今までの体験から「これを準備しておけばいいって決まったもの、あるのかしら…?」と意外なお答えがありました。つまり、「親亡き後どのように暮らしたいかはその人それぞれだから、必要なものも違ってくる」ということのようにです。

紹介された事例では、障害基礎年金の申請さえされていない方もいて、生活保護と併用受給のお手伝いをされたこともあり「お金の事ってどうにかなるものだったりするんですよ」とのこと。

さらに、「親が亡くなることを体験した本人さんに一番のしかかってくるのは喪失感＝“さみしさ”です。その後の生活を支えられるよう、孤立させないこと、楽しみをたくさん持たせてあげておくことは大切なのではないのでしょうか」と、人間関係や、余暇・趣味の充実を挙げられました。

長島さんご自身、障がい者の親であることを「私の強み」として語られ、多くの保護者が共感を得て、励みになったことでしょう。この勉強会で、親亡き後も親の意思を伝えられる手段を書き記しておくこと、我が子なりの自立をできるよう、本人の意思を汲み取った親亡き後の生活を想定しておくことが、まず必要な準備であるように感じました。(講演を録画したDVDを作成しております。ご希望の方は育成会事務局までお問い合わせください)

参加者から

長島氏は相談支援事業に携わり「親亡き後」まで支えられている方です。今まで関わってきた方の事を自分の想いを交え過去から現在まで話して下さいました。

事例だったためか、とても聞きやすく、また分かりやすかったです。最後に長島氏が想いを伝えられ、会場からは多くの共感と熱意が伝わってきました。

長島志津代さん

「親亡き後」とテーマは幅広かったですが、現状を知り、必要な事やより良い選択をするためにも、この話から枝葉を伸ばし、色々な事をみんなで学び、考え、より良い方向へ進んで行きたいと強く思いました。今後もこのような「勉強会」を行い、知る機会を得ていきたいです。(岸部武)

